

令和5年度（2023年度）

帯広圏総合都市交通体系調査

第2回 協議会

既存関連資料分析・データ整備による現況解析の結果報告

令和6年3月19日（火曜日） 14:00～

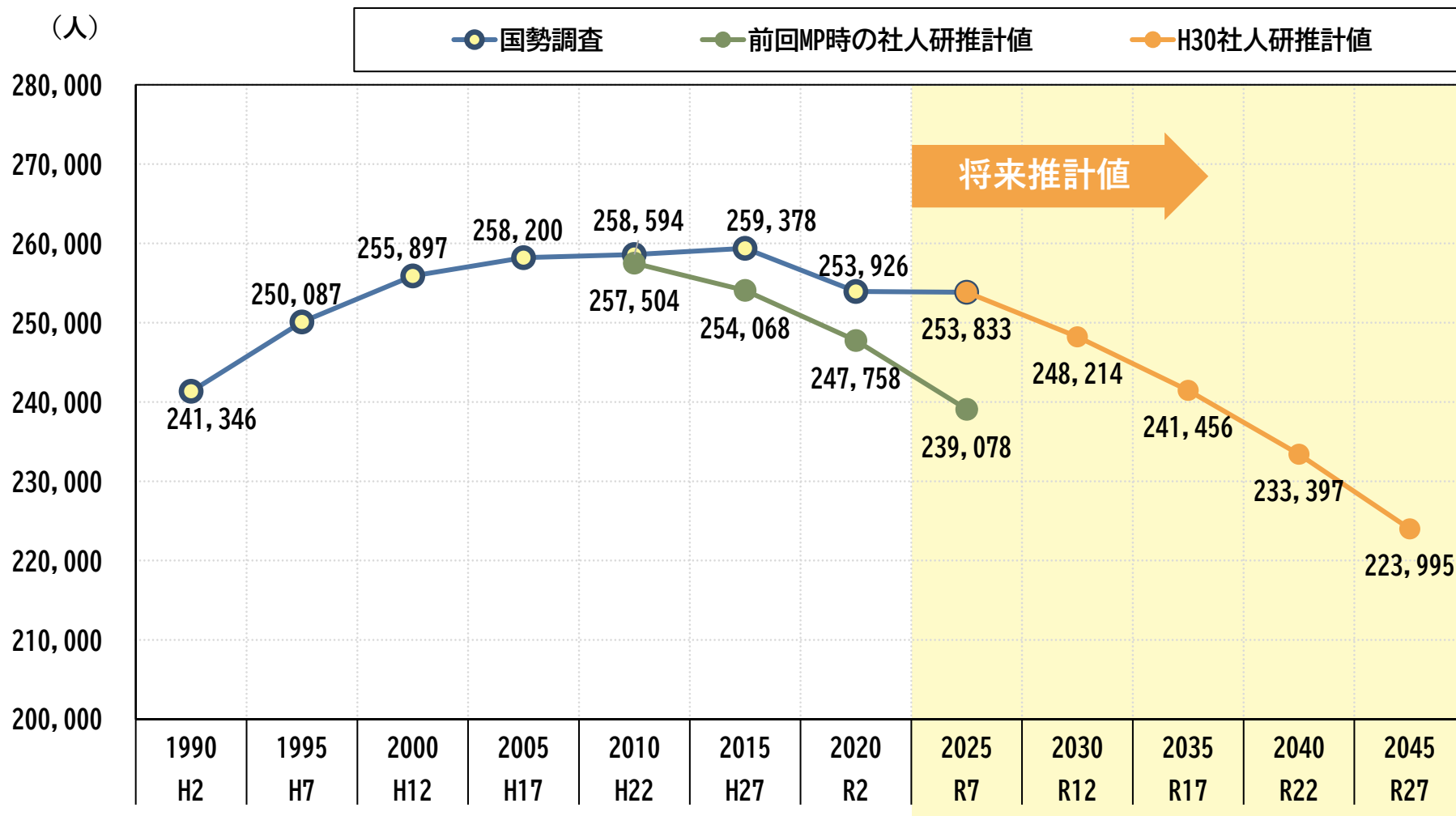
既存関連資料分析

1. 人口

(1) 人口の推移<帯広圏>

- 帯広圏（帯広市・音更町・芽室町・幕別町）の人口は平成27年をピークに人口減少に転じています。
- 前回マスタープラン策定時の人口推計値と比較して人口減少の割合は少ないものの、更なる人口減少が見込まれています。

人口の推移<帯広圏>

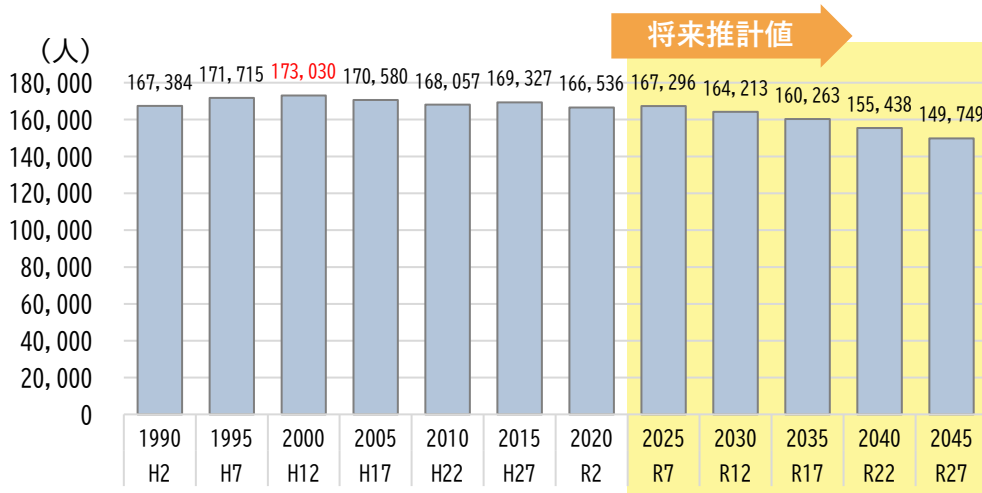


1. 人口

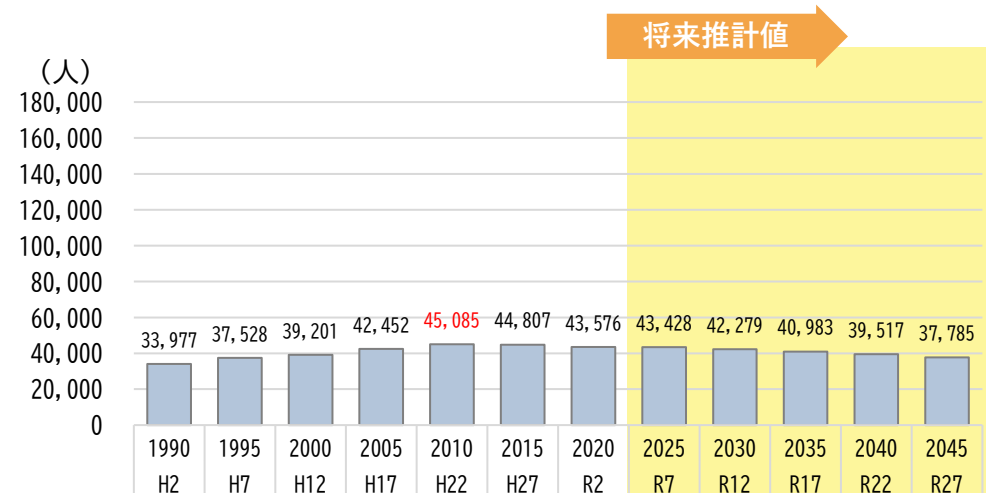
(2) 人口の推移<各市町>

- 国勢調査による4市町の人口を見ると、帯広市では平成12年をピークに人口減少、幕別町では平成17年をピークに人口減少、音更町と芽室町は平成22年をピークに人口減少に転じています。

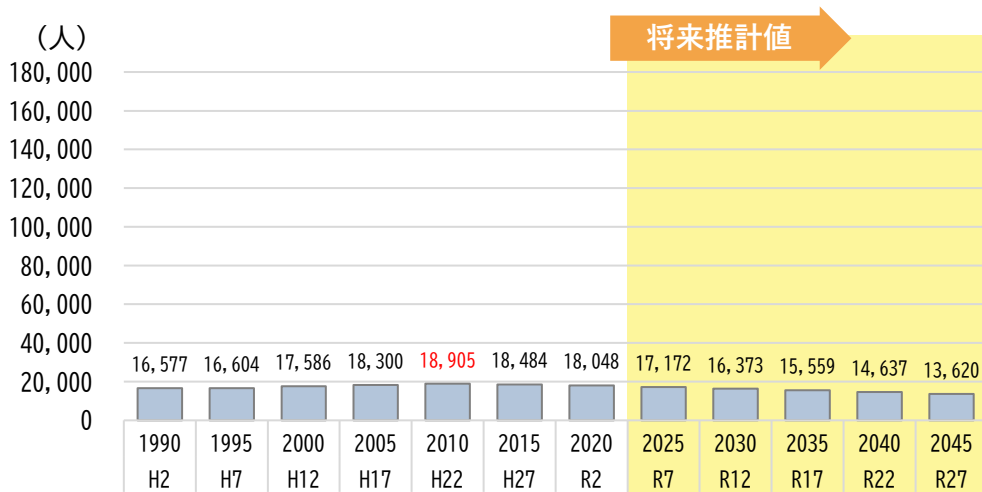
人口の推移<帯広市>



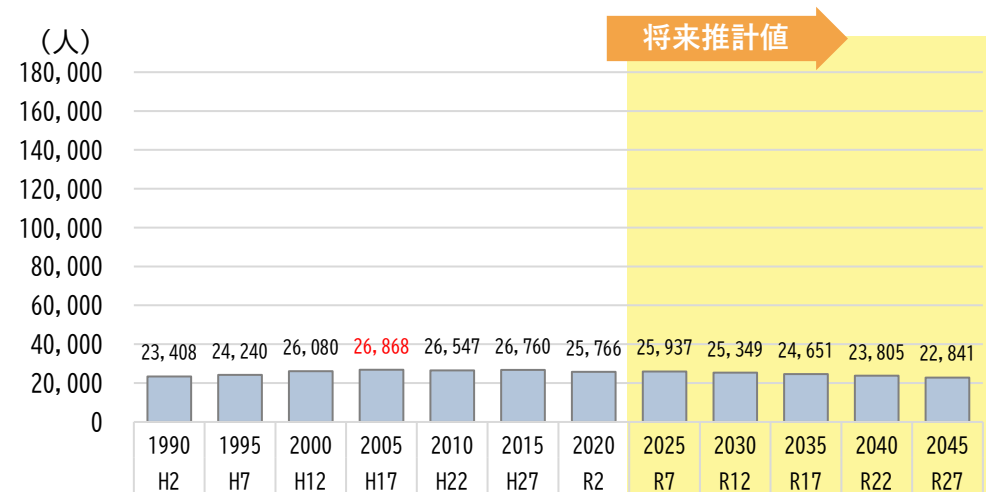
人口の推移<音更町>



人口の推移<芽室町>



人口の推移<幕別町>

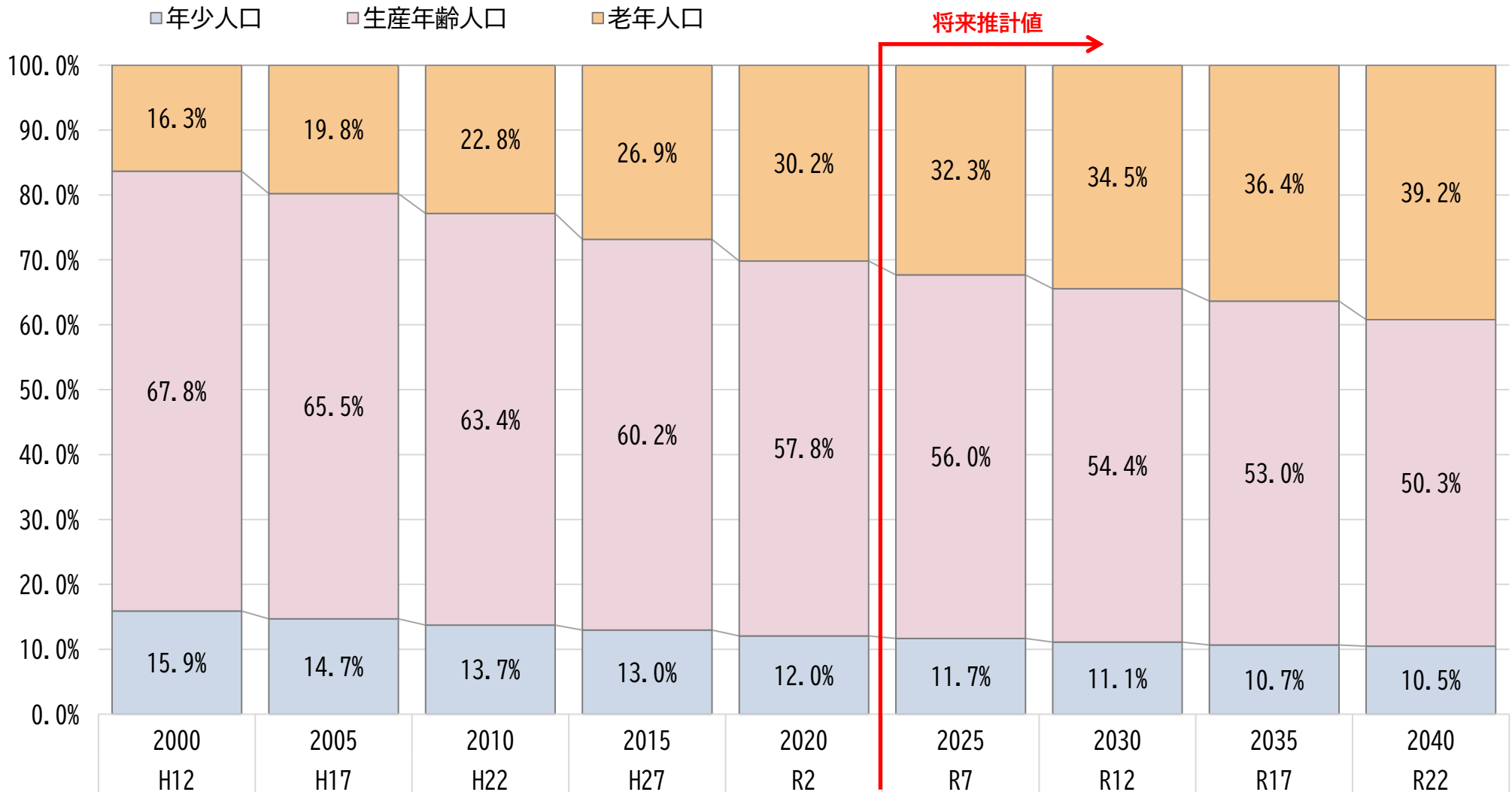


1. 人口

(3) 人口割合の推移<帯広圏>

- 帯広圏の高齢化率（老年人口割合）は、平成22年に21%以上（超高齢社会）となり、令和2年には30%を超え、今後増加が続く見込みです。
- 人口減少と人口構成の変化は、まちづくりに様々な影響を与えることが考えられます。

人口割合の推移<帯広圏>



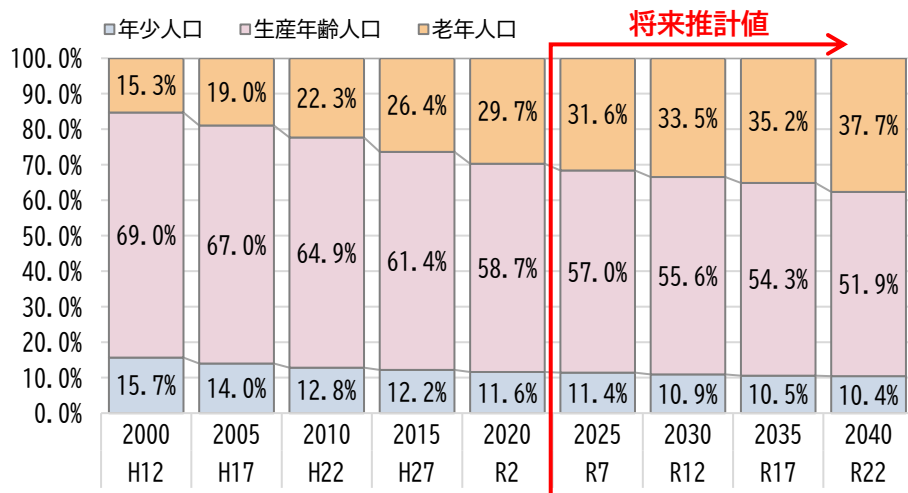
出典：≪H12～R2≫国勢調査 ≪推計値≫国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」

1. 人口

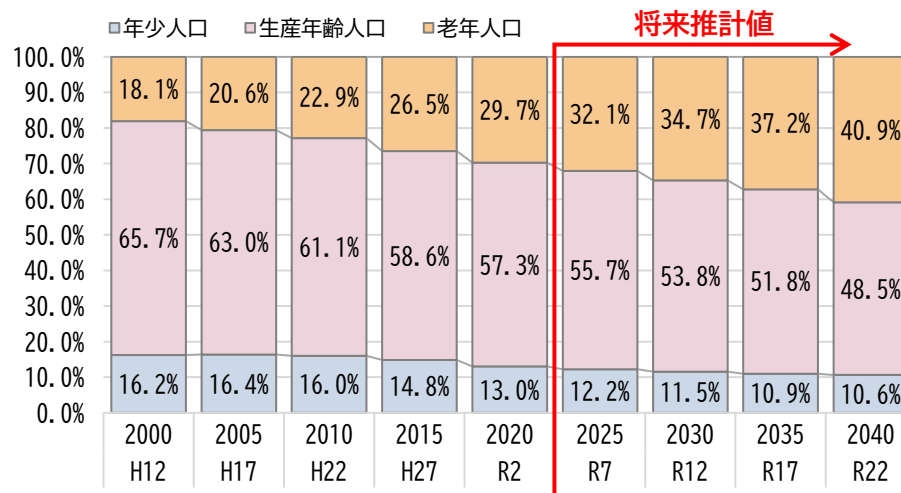
(4) 人口割合の推移<各市町>

- 国勢調査による4市町の人口割合を見ると、帯広市及び音更町では平成22年に老年人口割合が21%以上（超高齢社会）となり、芽室町及び幕別町では平成17年に超高齢社会となっています。
- 今後も、老年人口割合は増加が想定されます。

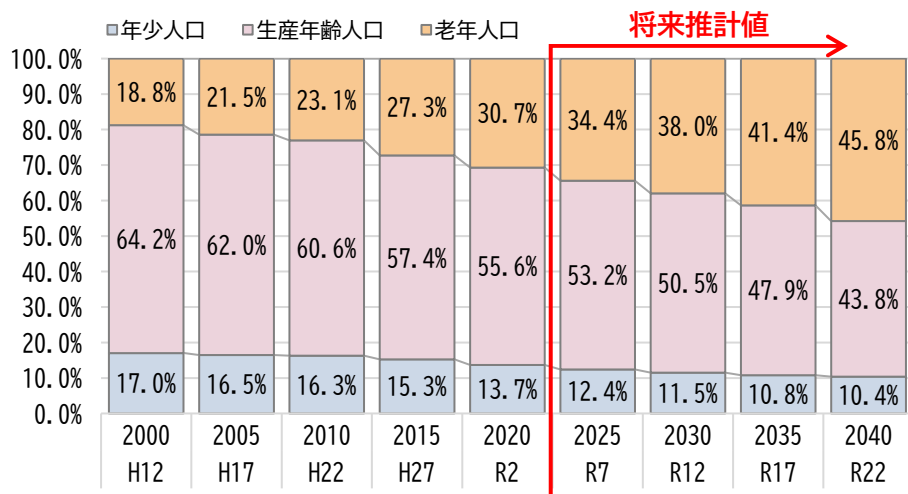
人口割合の推移<帯広市>



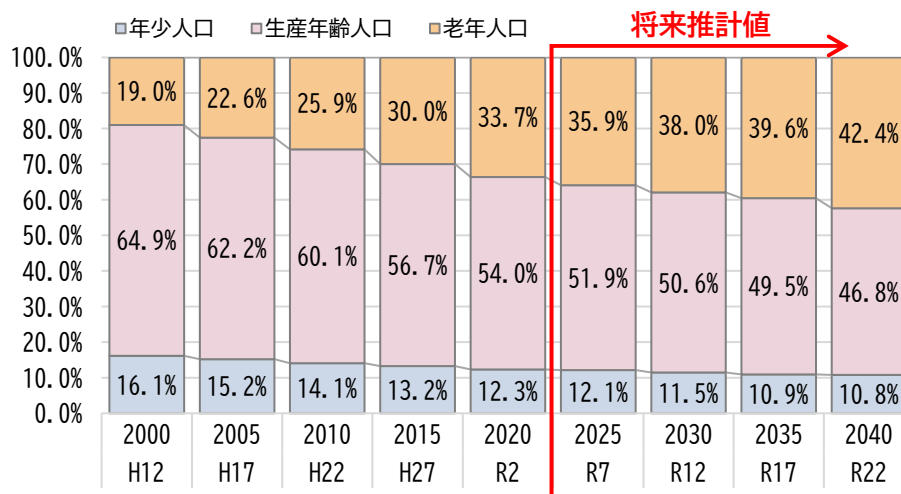
人口割合の推移<音更町>



人口割合の推移<芽室町>



人口割合の推移<幕別町>



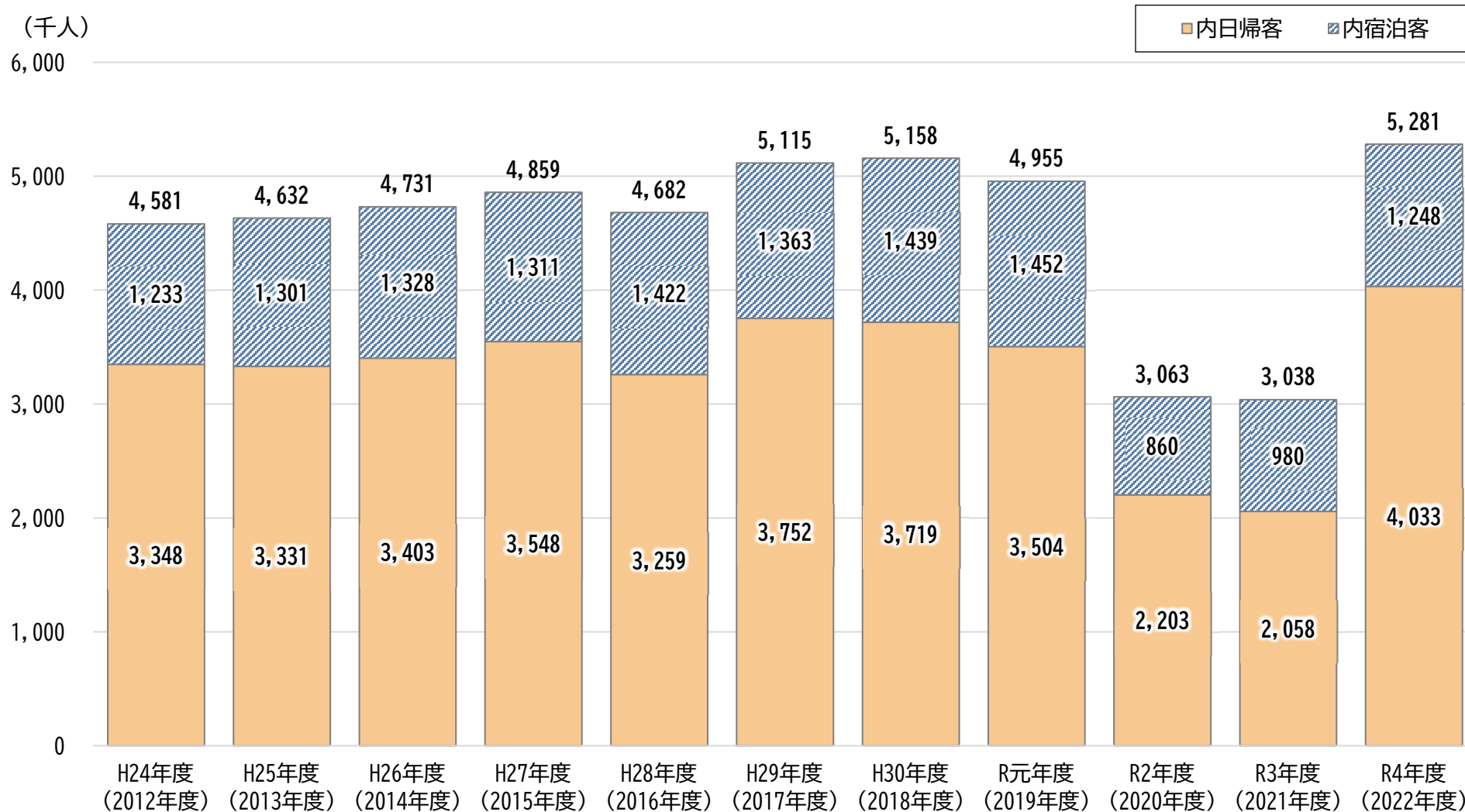
出典：≪H12～R2≫国勢調査 ≪推計値≫国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」

2. 観光

(1) 観光入込客数<帯広圏>

- 帯広圏における観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に大きく減少しましたが、令和4年度にはコロナ前まで回復しました。
- 令和4年4月に移転開業した「道の駅おとふけ なつぞらのふる里」の影響が要因となっています。

観光入込客数の推移<帯広圏>

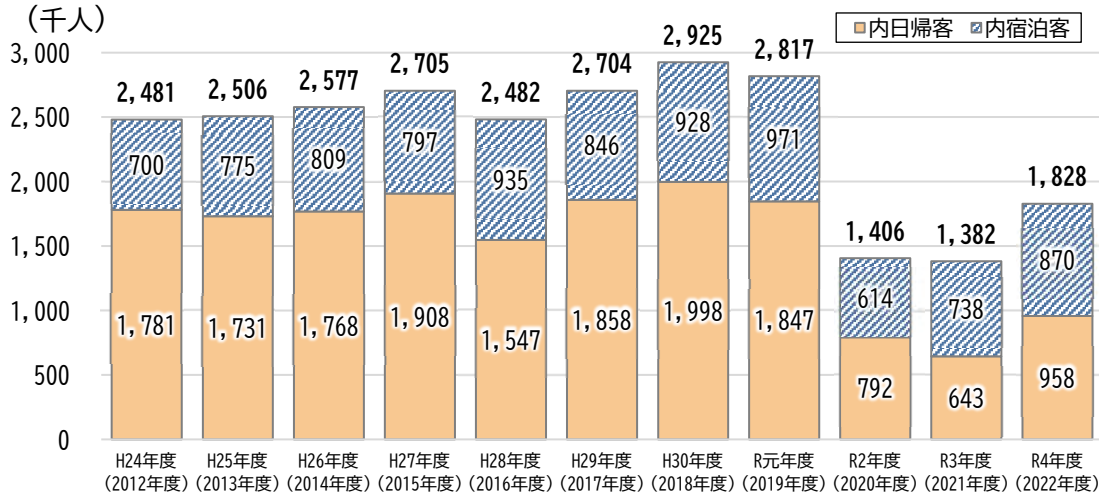


2. 観光

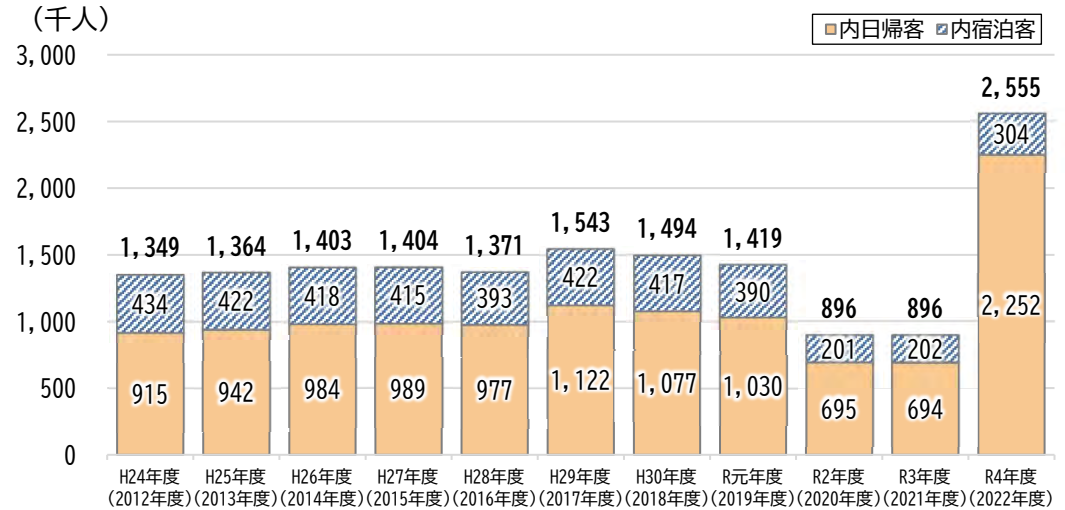
(2) 観光入込客数<各市町>

- 4市町の観光入込客数を見ると、帯広市は新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に大きく減少し令和4年度も観光客が戻っていません。一方で、音更町は、道の駅の開業などもあり、コロナ禍前よりも大きく増加しています。芽室町及び幕別町は横ばい傾向です。

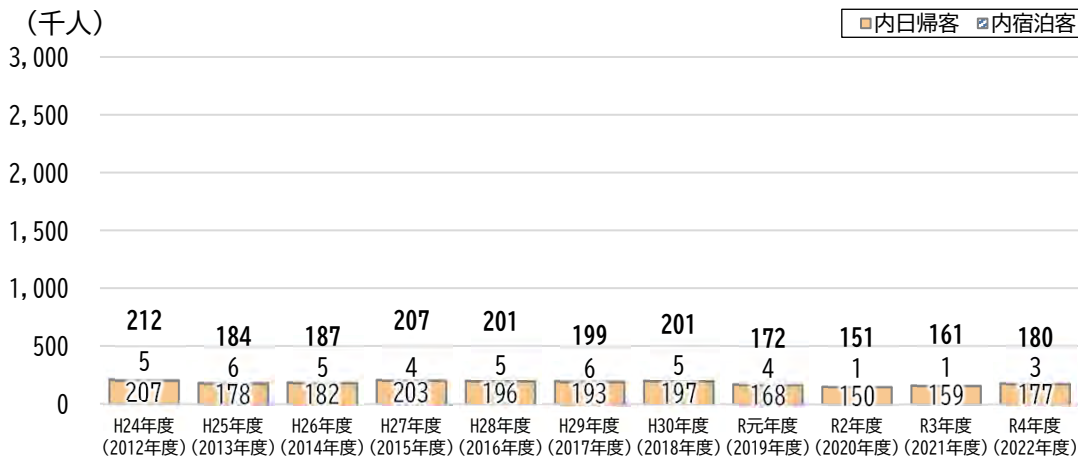
観光入込客数の推移<帯広市>



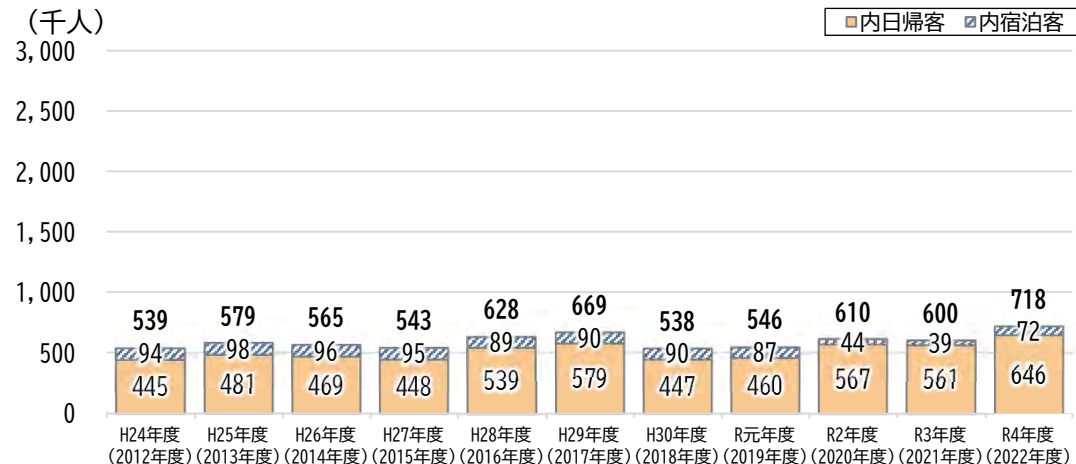
観光入込客数の推移<音更町>



観光入込客数の推移<芽室町>



観光入込客数の推移<幕別町>

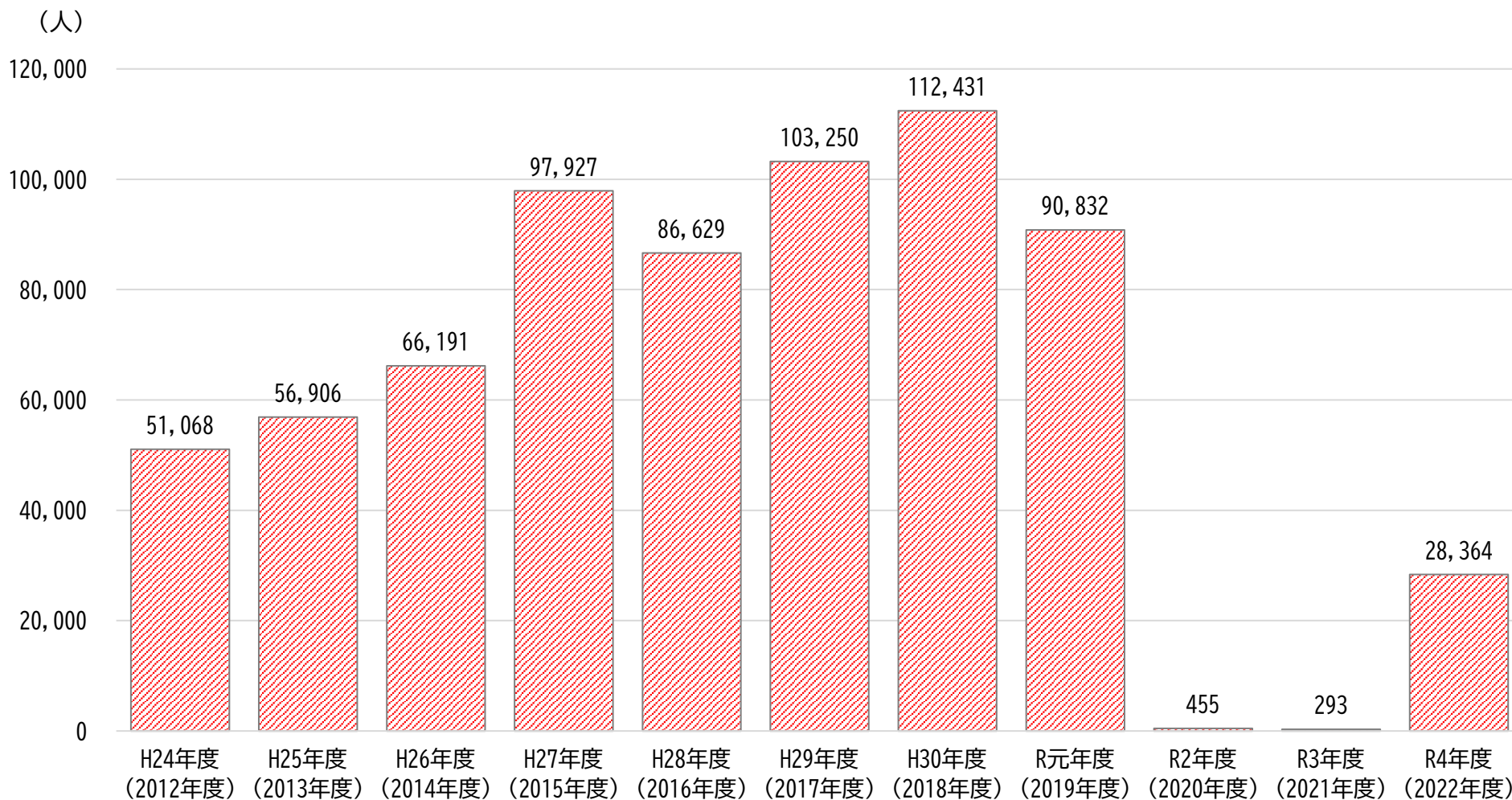


2. 観光

(3) 訪日外国人宿泊者数<帯広圏>

- 訪日外国人は増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に大きく減少しました。
- 新型コロナウイルス感染症前の宿泊者数までは回復していませんが、令和4年度には回復傾向にあります。

訪日外国人宿泊者数の推移<帯広圏>

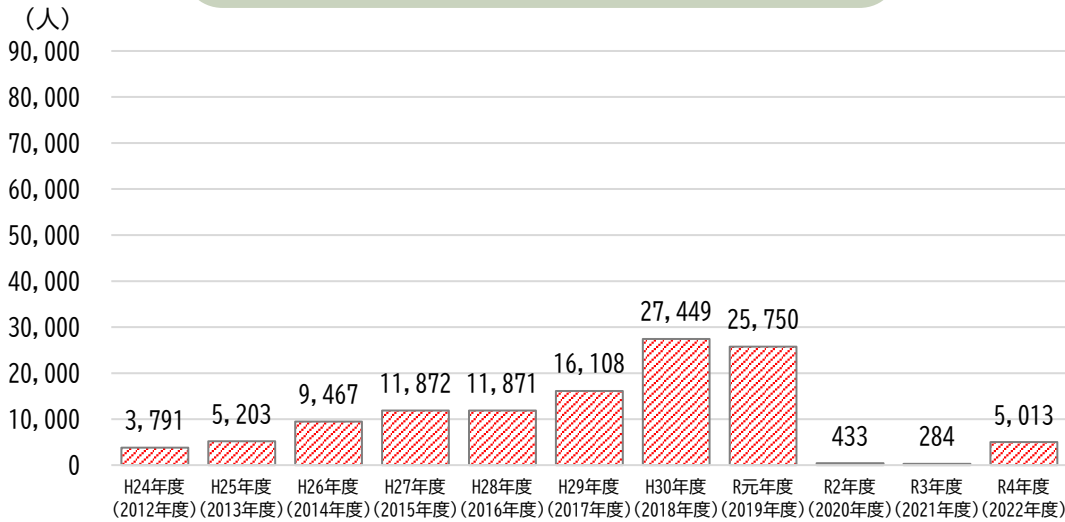


2. 観光

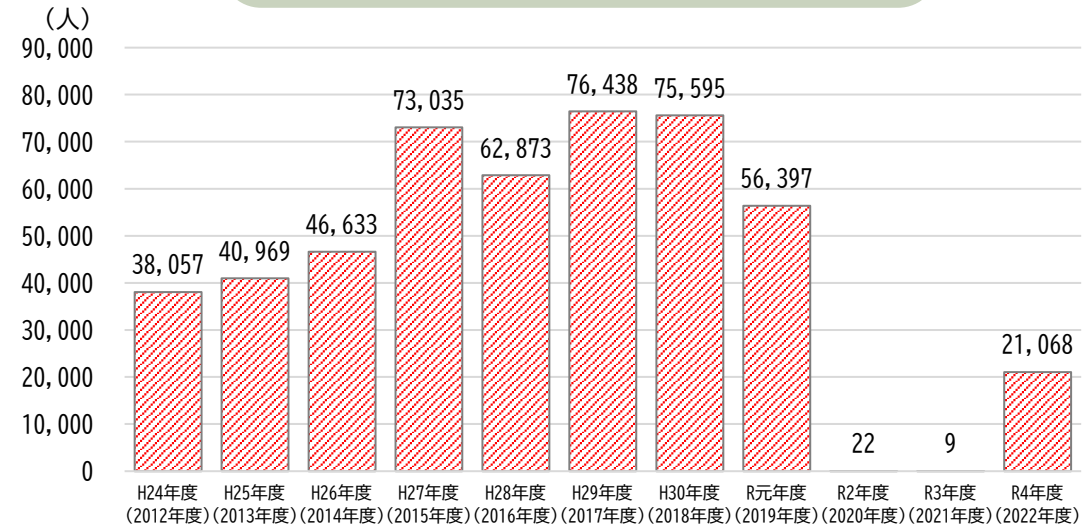
(4) 訪日外国人宿泊者数<各市町>

- 4市町の訪日外国人宿泊者数を見ると、帯広市及び音更町は増加傾向、芽室町及び幕別町は横ばい傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から令和3年度にかけて減少しています。

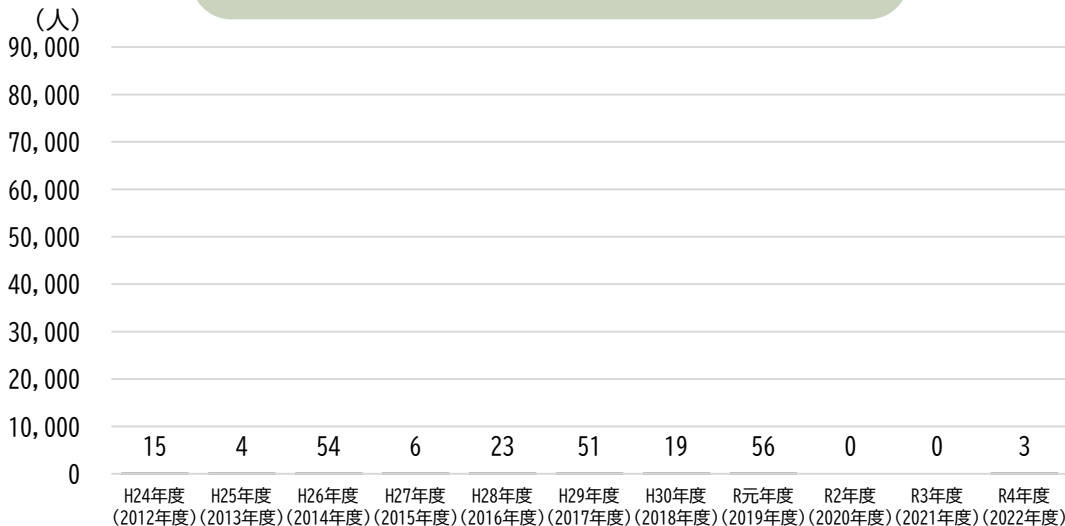
訪日外国人宿泊者数の推移<帯広市>



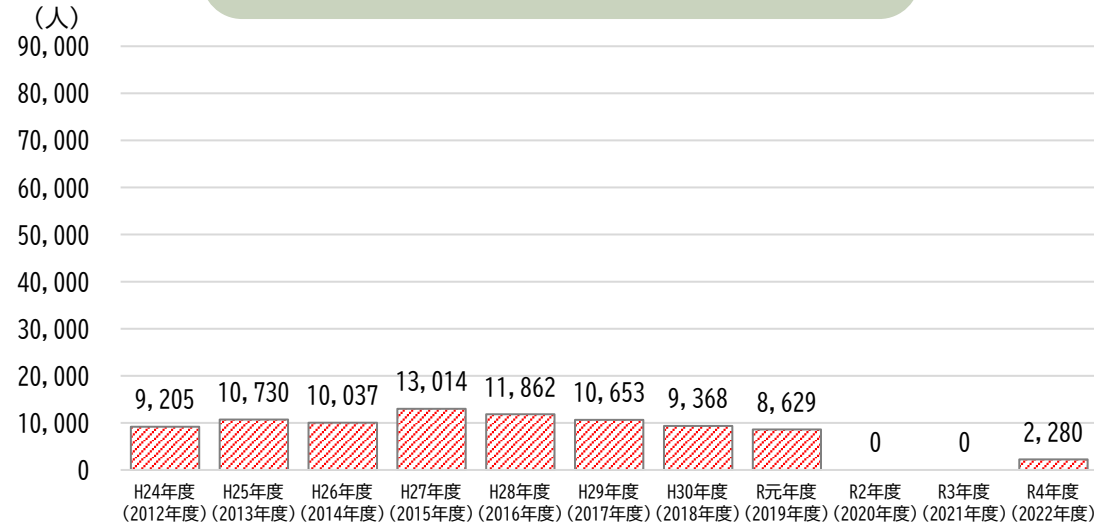
訪日外国人宿泊者数の推移<音更町>



訪日外国人宿泊者数の推移<芽室町>



訪日外国人宿泊者数の推移<幕別町>

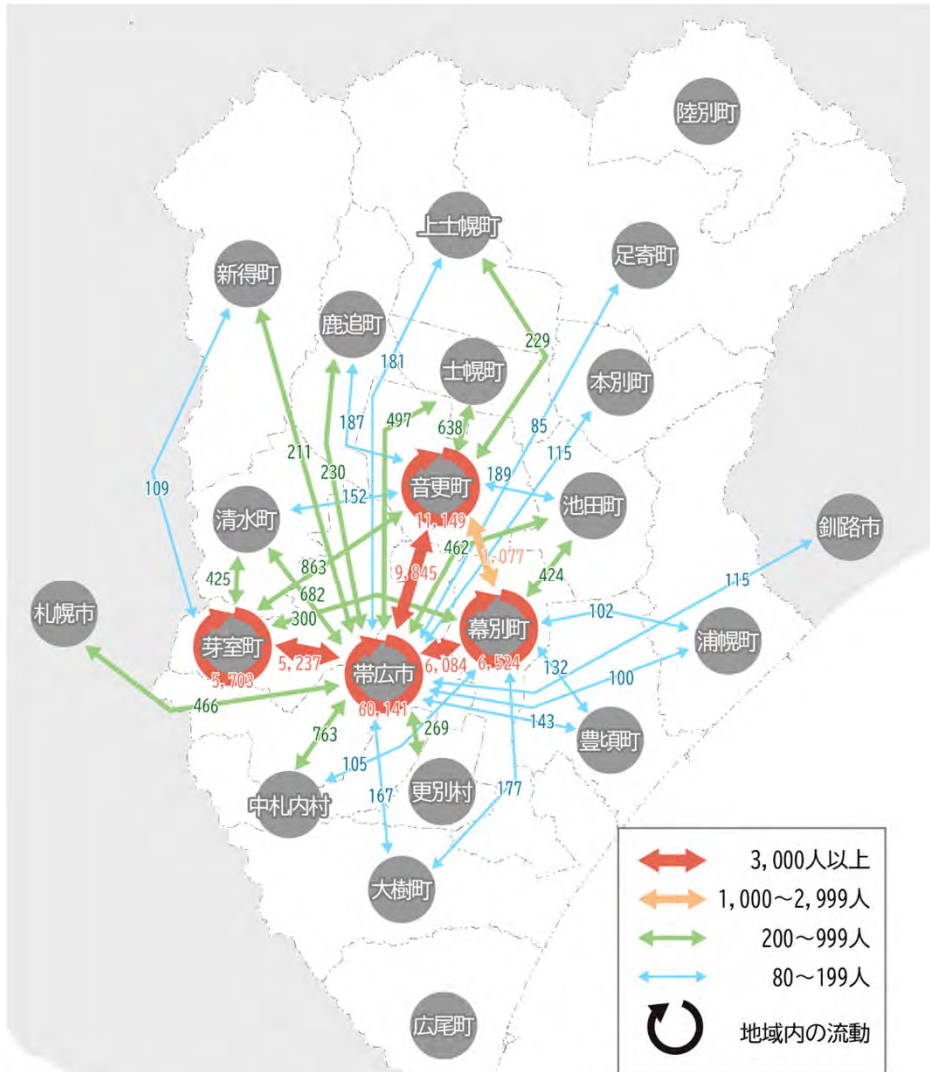


3. 流動

(1) 通勤・通学流動<帯広圏>

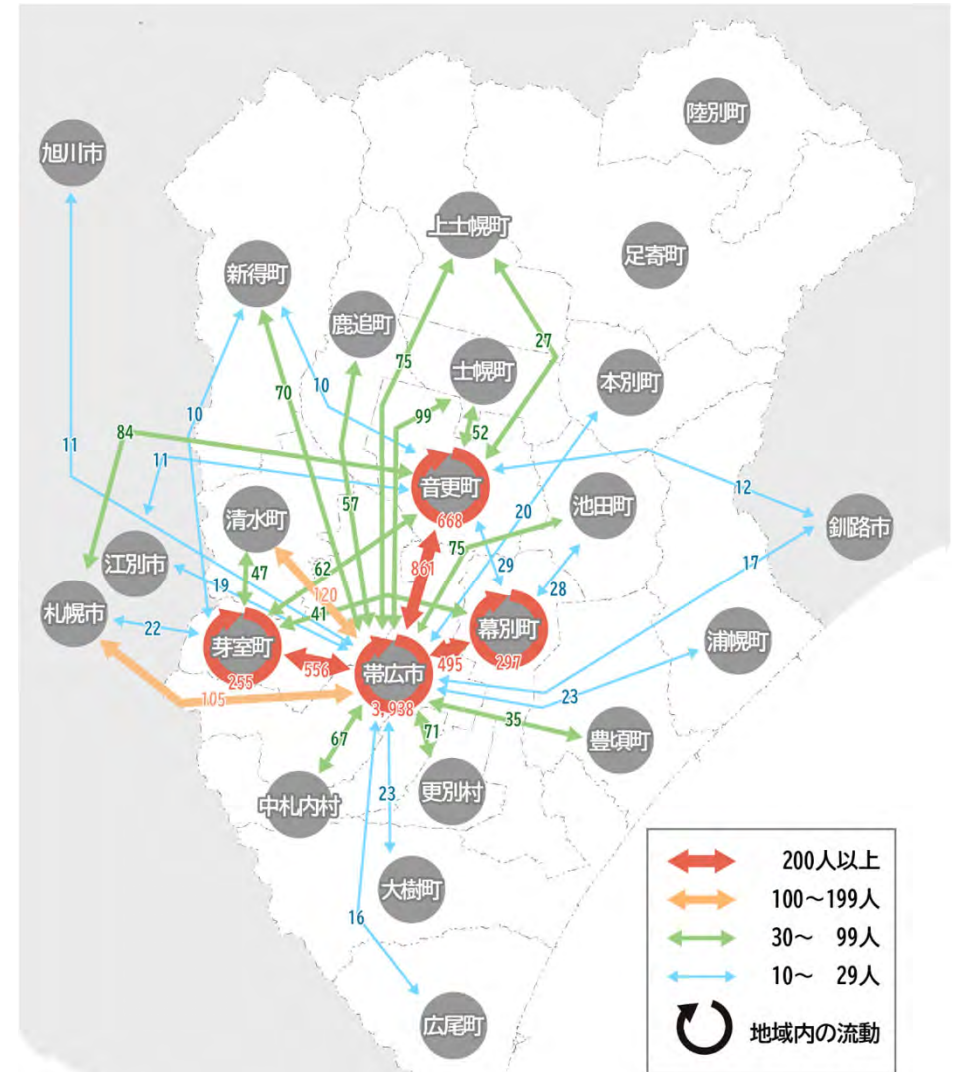
- 帯広圏（帯広市・音更町・幕別町・芽室町間）に関連する通勤の流動を見ると、自市町内の流動のほか、4市町間の流動が多く、通学も通勤と同様の傾向ではありますが、通学流動では、通勤流動と比べると札幌市や十勝管内の他の市町村間の移動といった、より広域的な流動も多くみられます。

通勤流動<帯広圏>



※80人以上の流動を抽出
 ※住民票所在地と、通勤場所に基づくデータであり、実際の移動とは異なる場合があります。

通学流動<帯広圏>



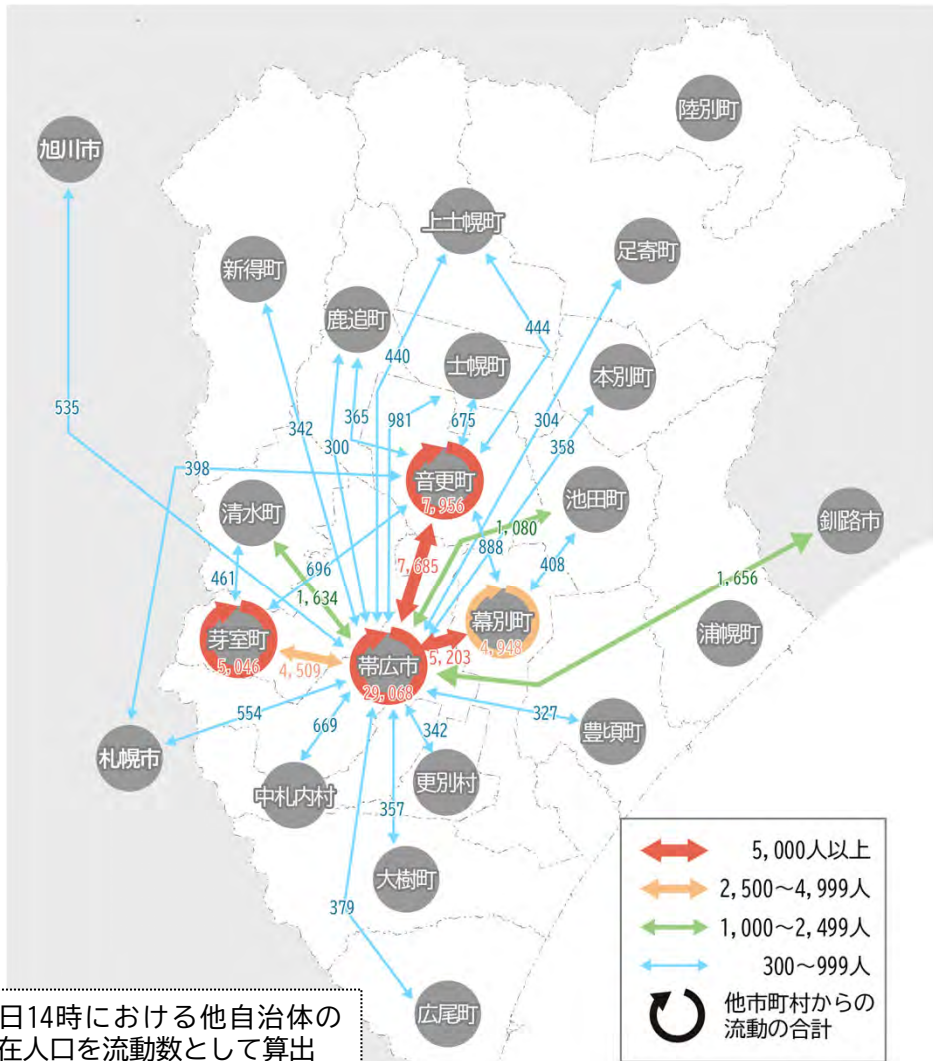
※10人以上の流動を抽出
 ※住民票所在地と、通学場所に基づくデータであり、実際の移動とは異なる場合があります。 出典：令和2年国勢調査

3. 流動

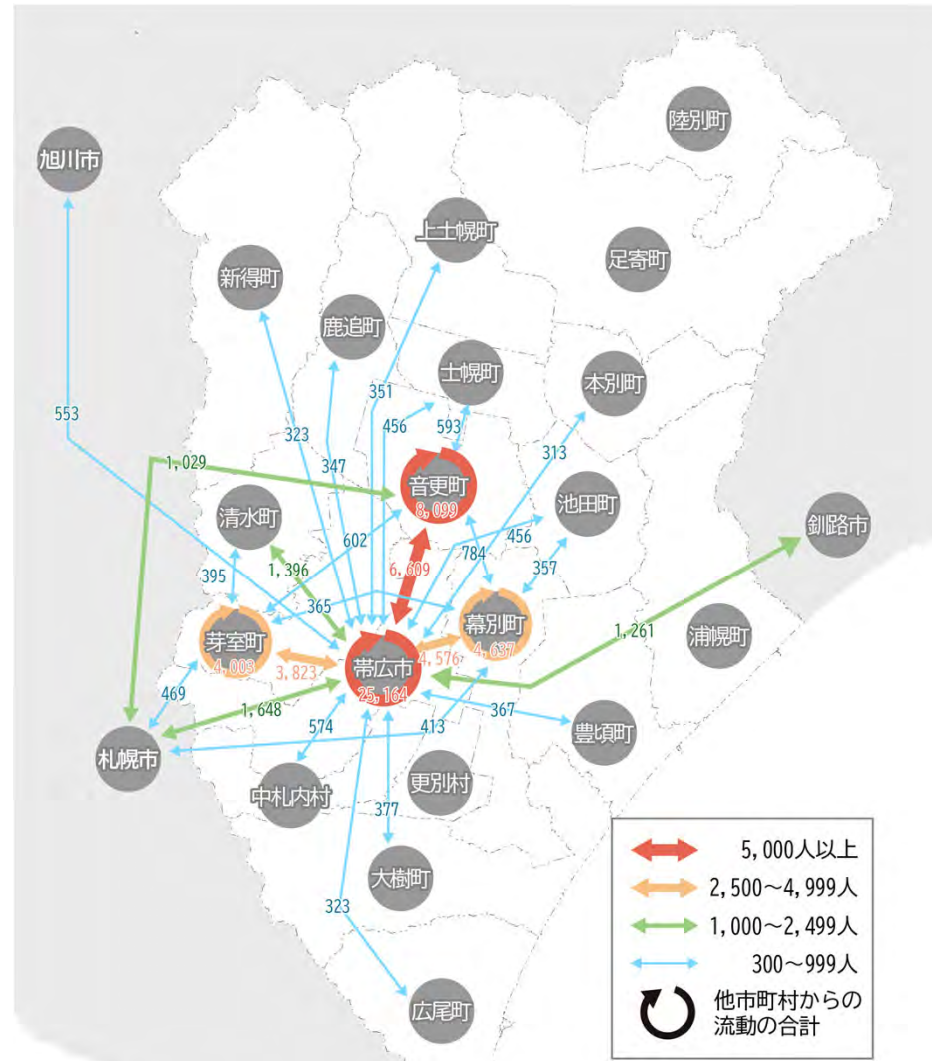
(2) 休日流動<帯広圏>

- 4市町（帯広市・音更町・幕別町・芽室町間）に関連する休日の流動を見ると、帯広市には音更町、芽室町、幕別町のほか、釧路市や十勝管内の自治体間の移動が見られます。
- コロナ禍前後を比較すると、流動数の変化はありますが、移動先に大きな変化は見られません。

休日流動<帯広圏> コロナ禍前 2019年8月



休日流動<帯広圏> コロナ禍 2022年8月



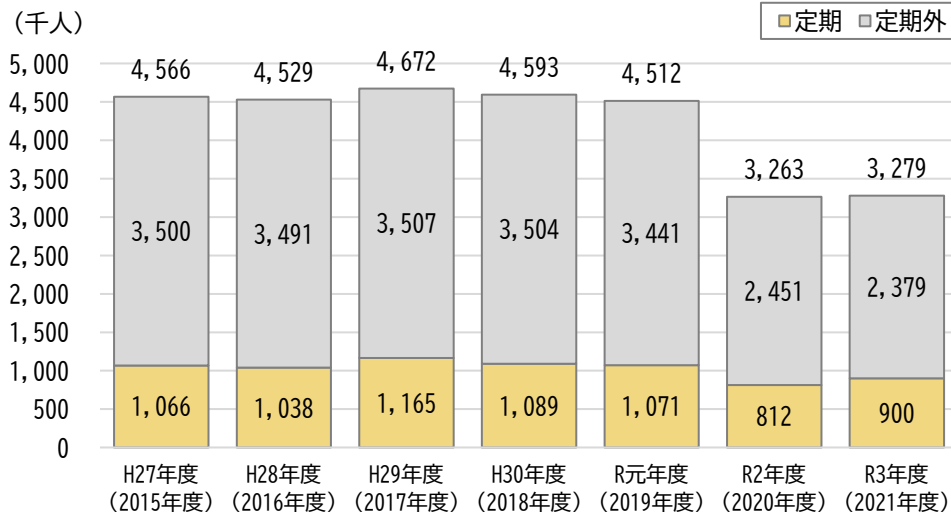
※ 休日14時における他自治体の滞在人口を流動数として算出
 ※ 流動数は300人以上、かつ、RESASで把握可能な上位9位までを掲載

4. 輸送

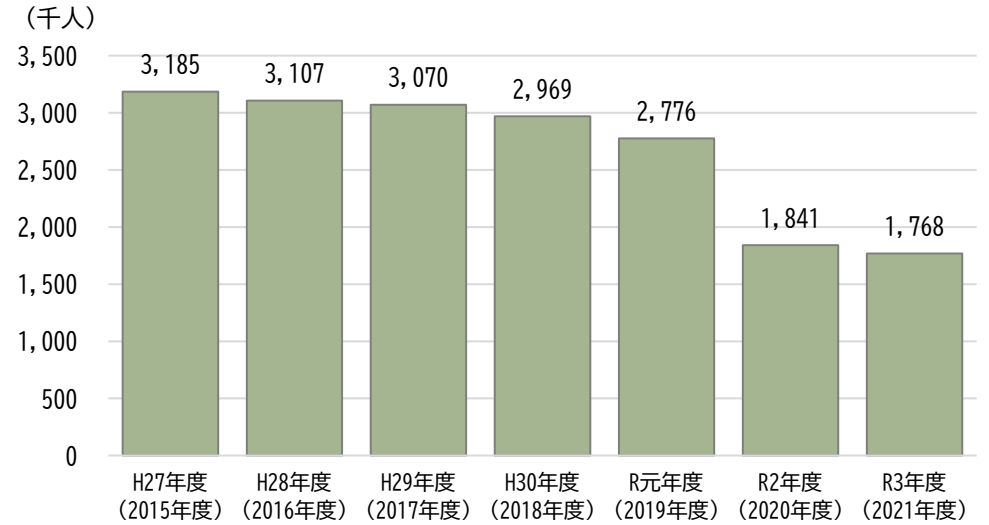
(1) 旅客輸送

- コロナ前までは乗合バスの輸送人員は横ばい傾向でしたが、コロナ禍の影響により令和2年度に減少しました。
- ハイヤー・タクシーの輸送人員は減少傾向であり、コロナ禍の影響により令和2年度にさらに減少しました。
- コロナ前までは航空輸送の輸送人員は横ばい傾向でしたが、コロナ禍の影響により令和2年度に大きく減少しました。

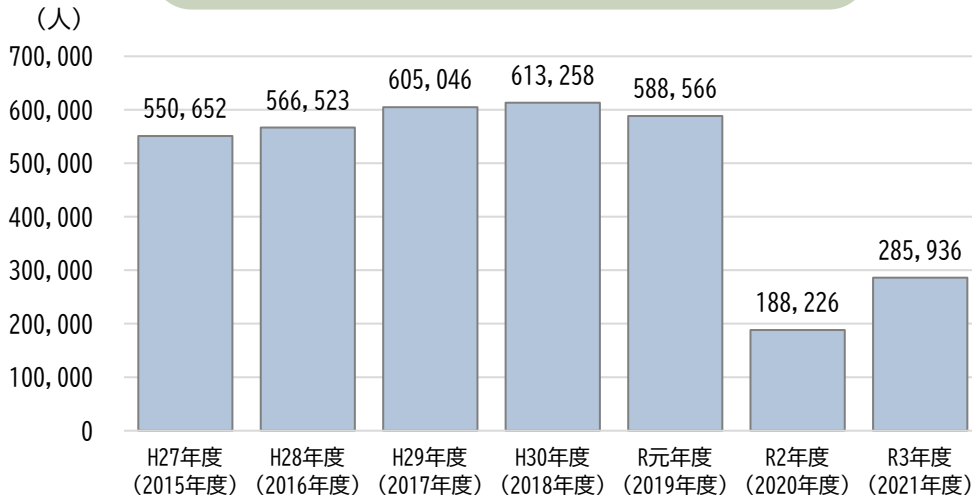
乗合バスの輸送人員推移<十勝総合振興局管内>



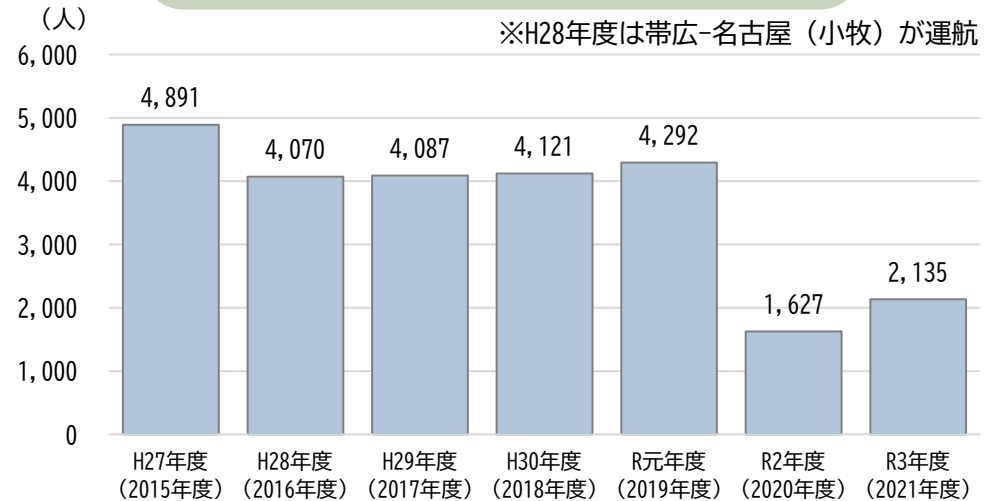
ハイヤー・タクシーの輸送人員推移<十勝総合振興局管内>



航空輸送の輸送人員推移<帯広-羽田>



航空輸送の輸送人員推移<帯広-中部>

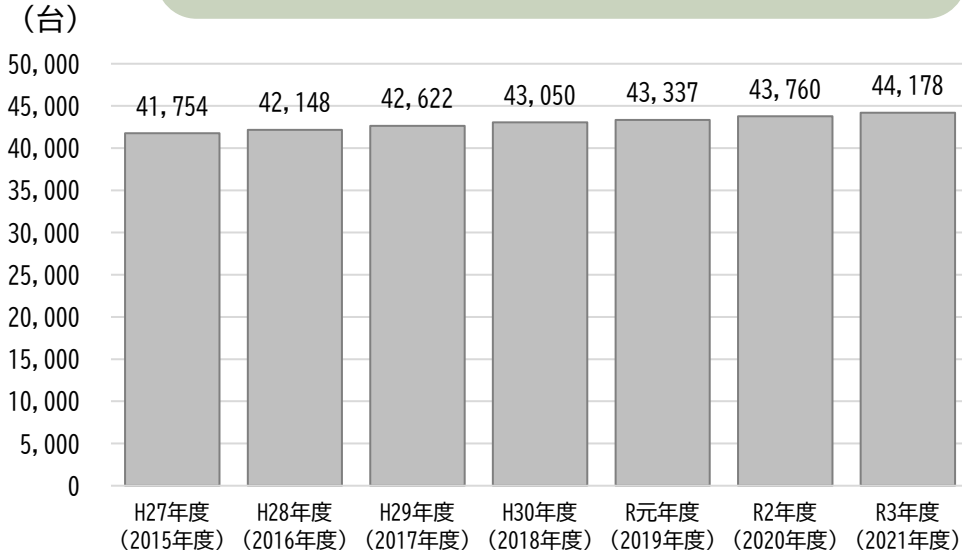


4. 輸送

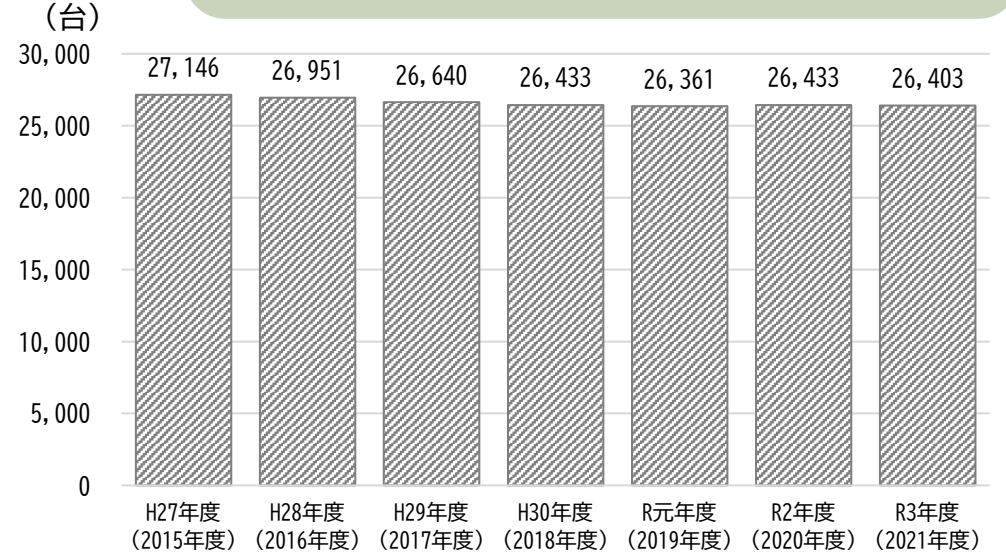
(2) 貨物輸送

- 貨物自動車数は増加傾向、軽貨物自動車数は横ばい傾向にあります。
- 航空による輸送量は、帯広-羽田線による輸送が大半を占めています。コロナ禍の令和2年度以降、定期路線の減便により輸送量も大幅に減少しています。

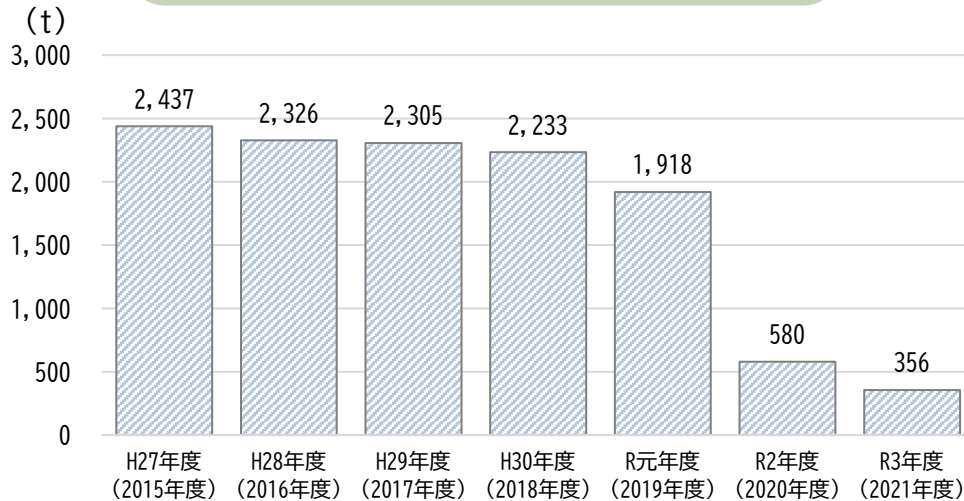
貨物自動車の輸送台数推移<十勝総合振興局管内>



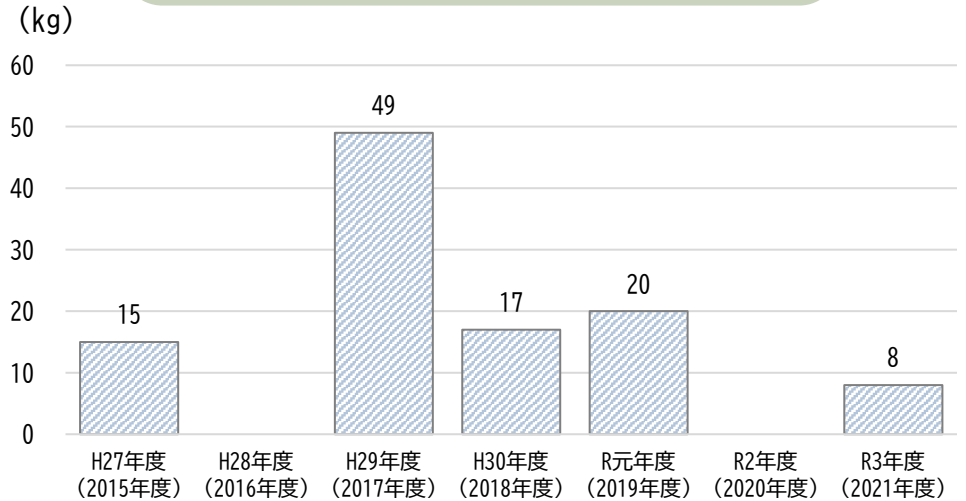
軽貨物自動車の輸送台数推移<十勝総合振興局管内>



航空輸送の輸送量推移<帯広-羽田>



航空輸送の輸送量推移<帯広-中部>

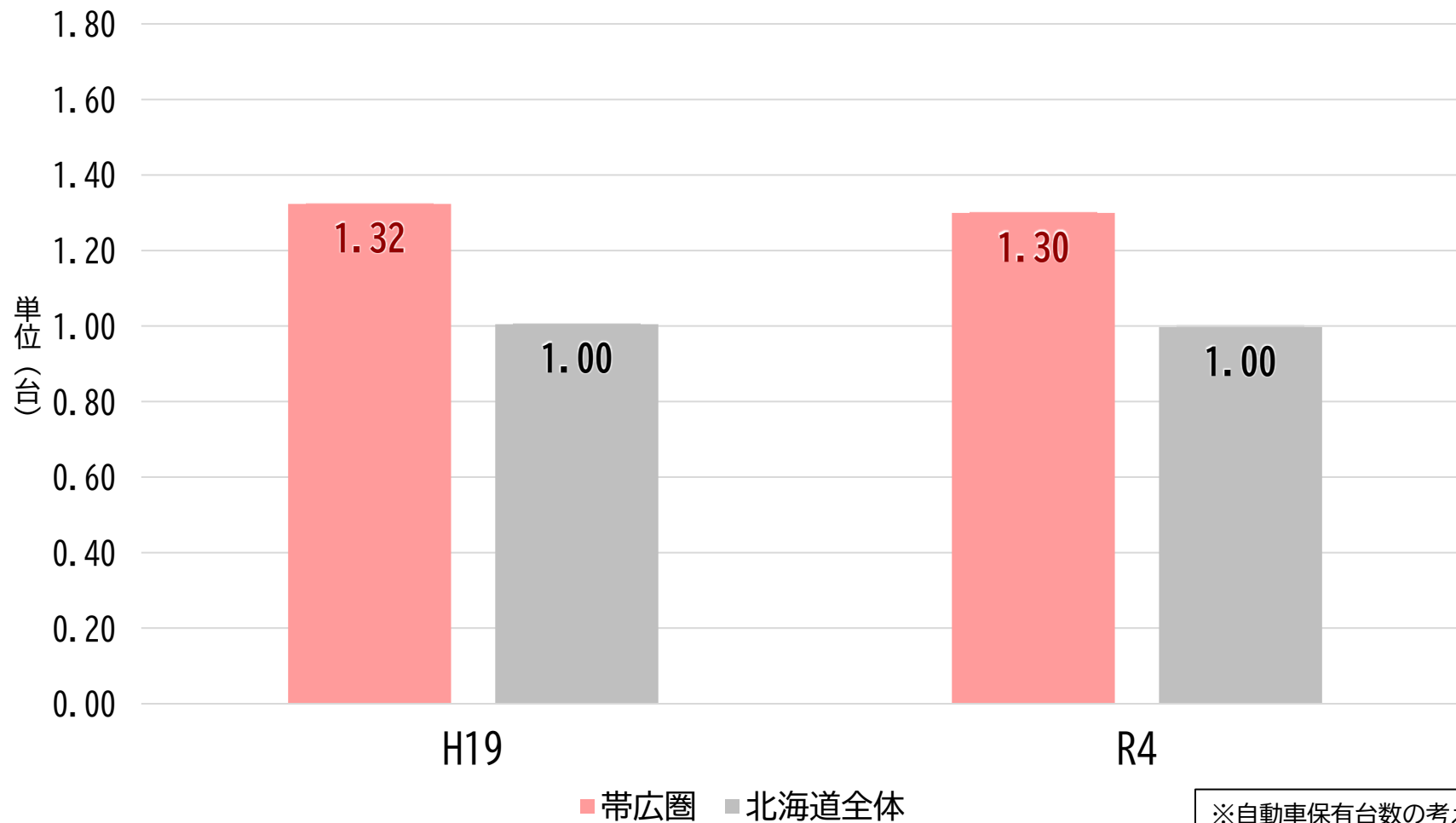


4. 輸送

(3) 世帯あたり自動車保有台数

- 北海道全体と帯広圏の世帯あたりの自動車保有台数を比較すると、前回MP策定時の平成19年、及び令和4年ともに、帯広圏の世帯あたりの自動車保有台数は高い傾向にあります。

1世帯あたりの自動車保有台数<帯広圏>



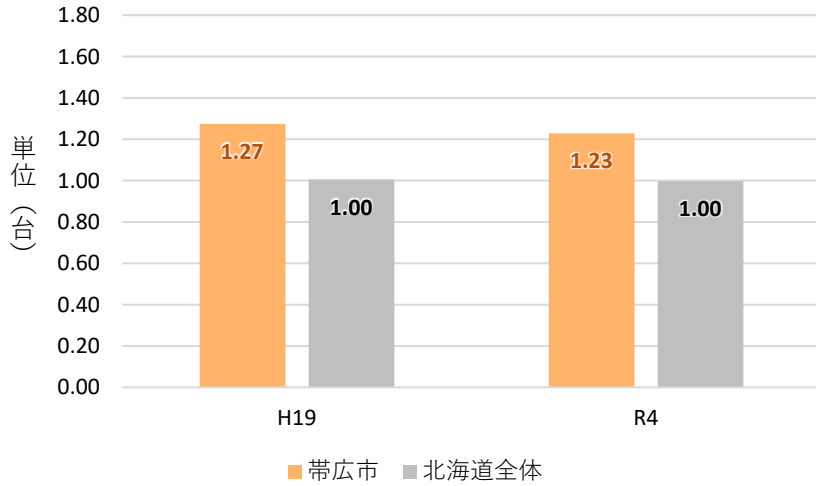
※自動車保有台数の考え方
乗用（普通車・小型車）、軽自動車（乗用車）の合計車両台数を保有台数として計算

4. 輸送

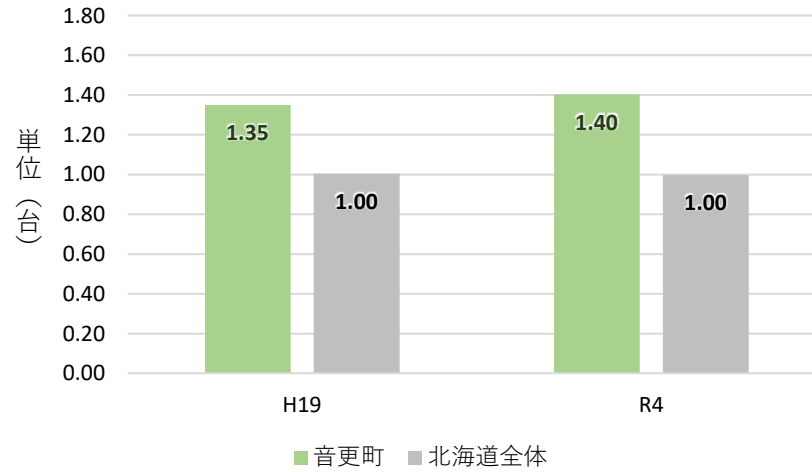
(3) 世帯あたり自動車保有台数

- 各市町の世帯あたりの自動車保有台数について北海道全体と比較すると、各市町の1世帯あたりの自動車保有台数は高い傾向にあります。

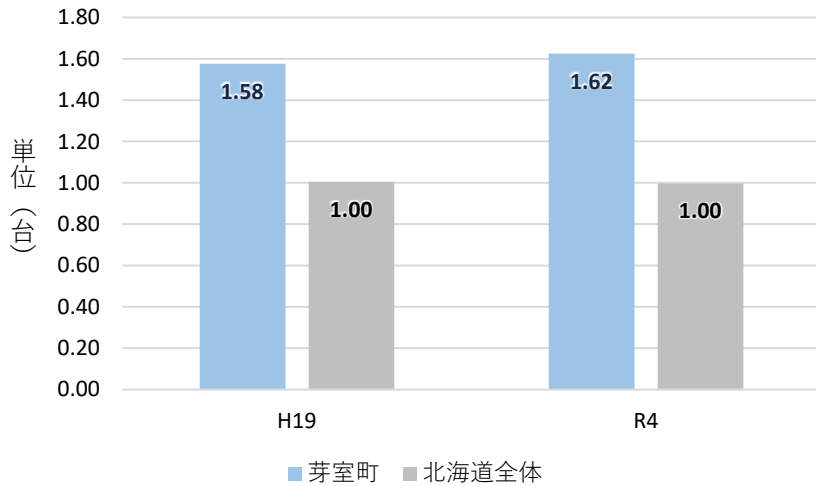
世帯あたり自動車保有台数<帯広市>



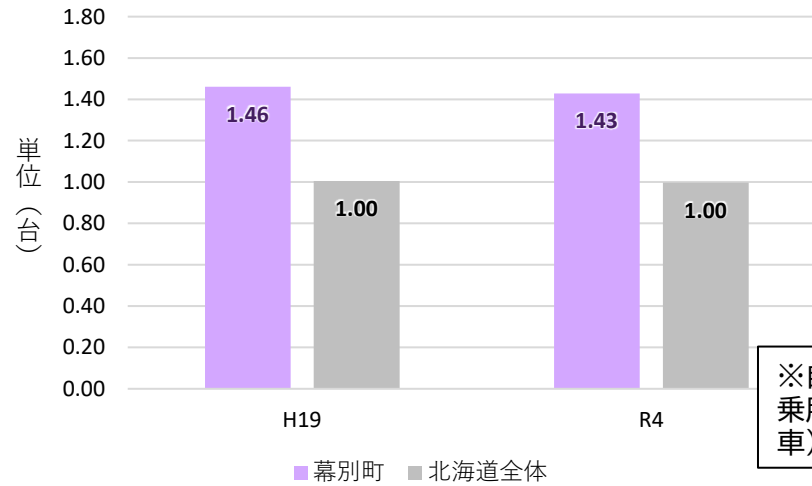
世帯あたり自動車保有台数<音更町>



世帯あたり自動車保有台数<芽室町>



世帯あたり自動車保有台数<幕別町>



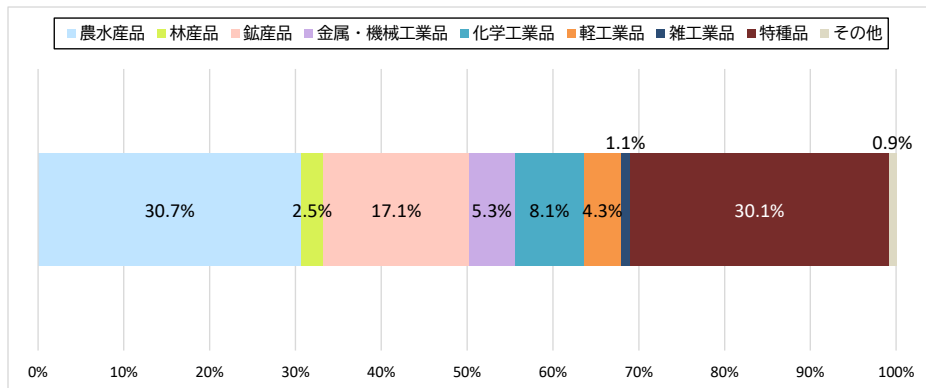
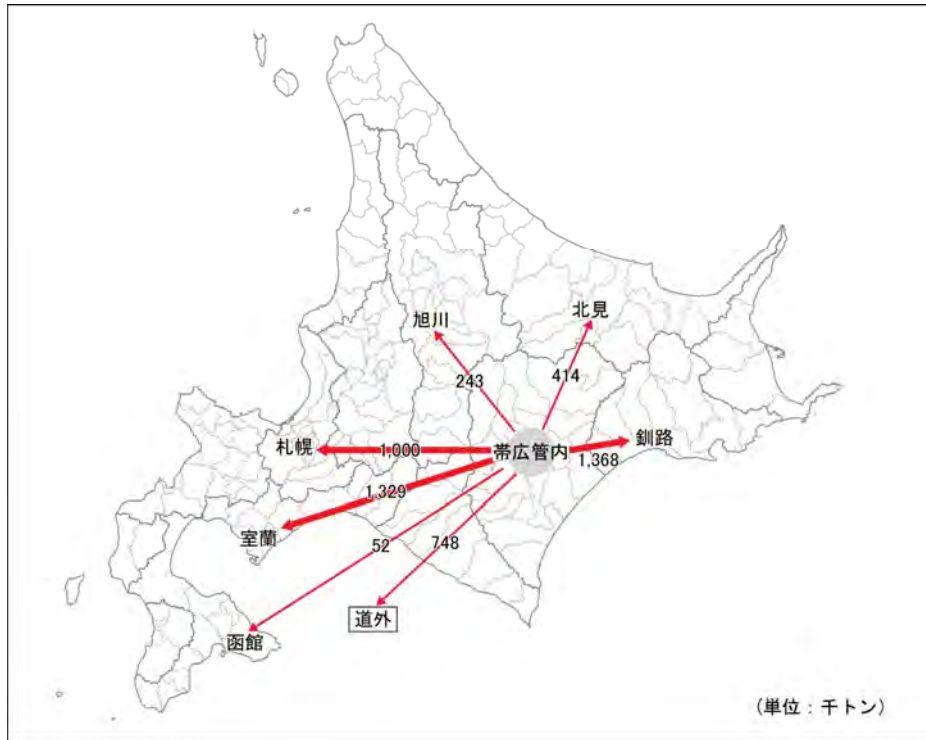
※自動車保有台数の考え方
乗用(普通車・小型車)、軽自動車(乗用車)の合計車両台数を保有台数として計算

5. 物流

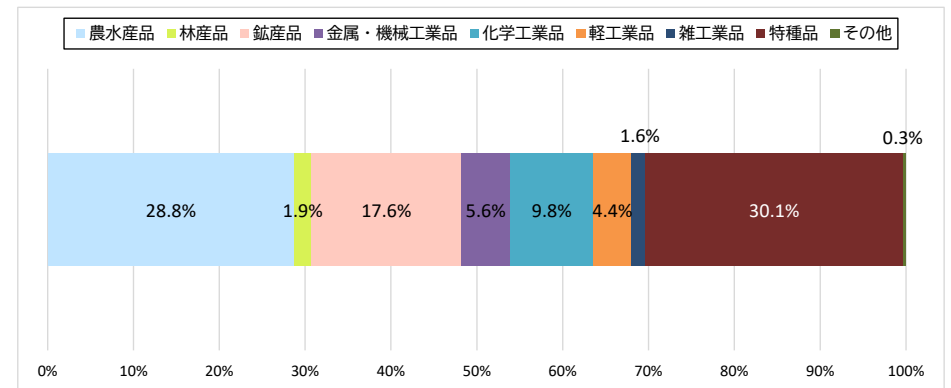
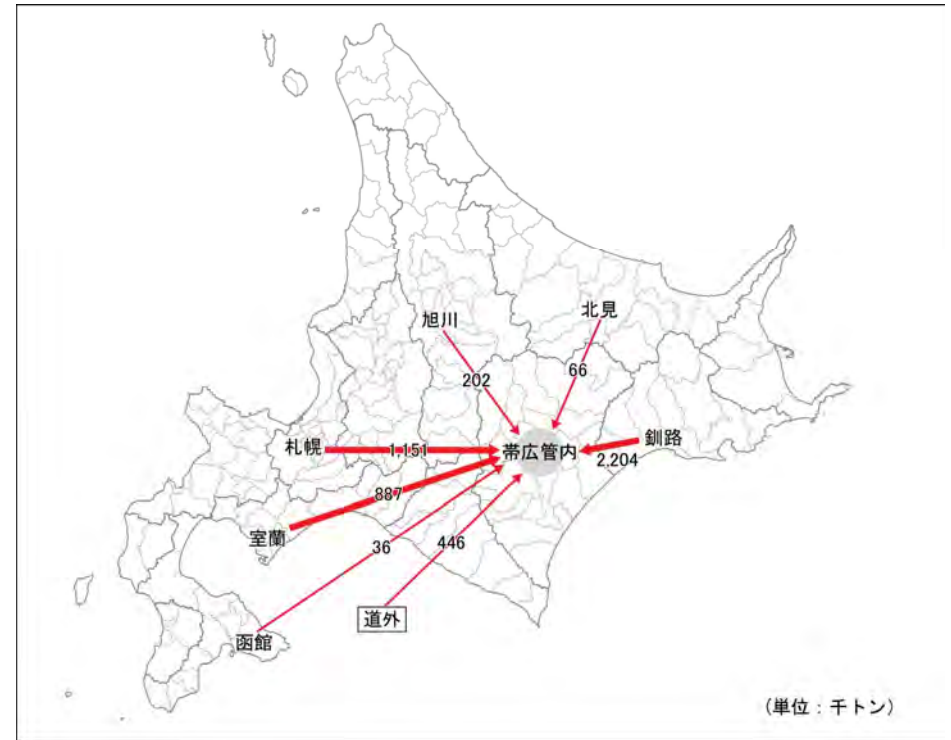
(1) 貨物流動

- 帯広（運輸支局管内）発の貨物流動を見ると、釧路・室蘭・札幌への流動が多く、品目内訳は農水産品・特種品（金属くず、動植物性飼料、廃棄物等）の割合が高くなっています。
- 帯広（運輸支局管内）着の貨物流動を見ると、釧路・札幌からが多く、品目内訳は特種品（金属くず、動植物性飼料、廃棄物等）・農水産品の割合が高くなっています。

貨物流動【帯広発】



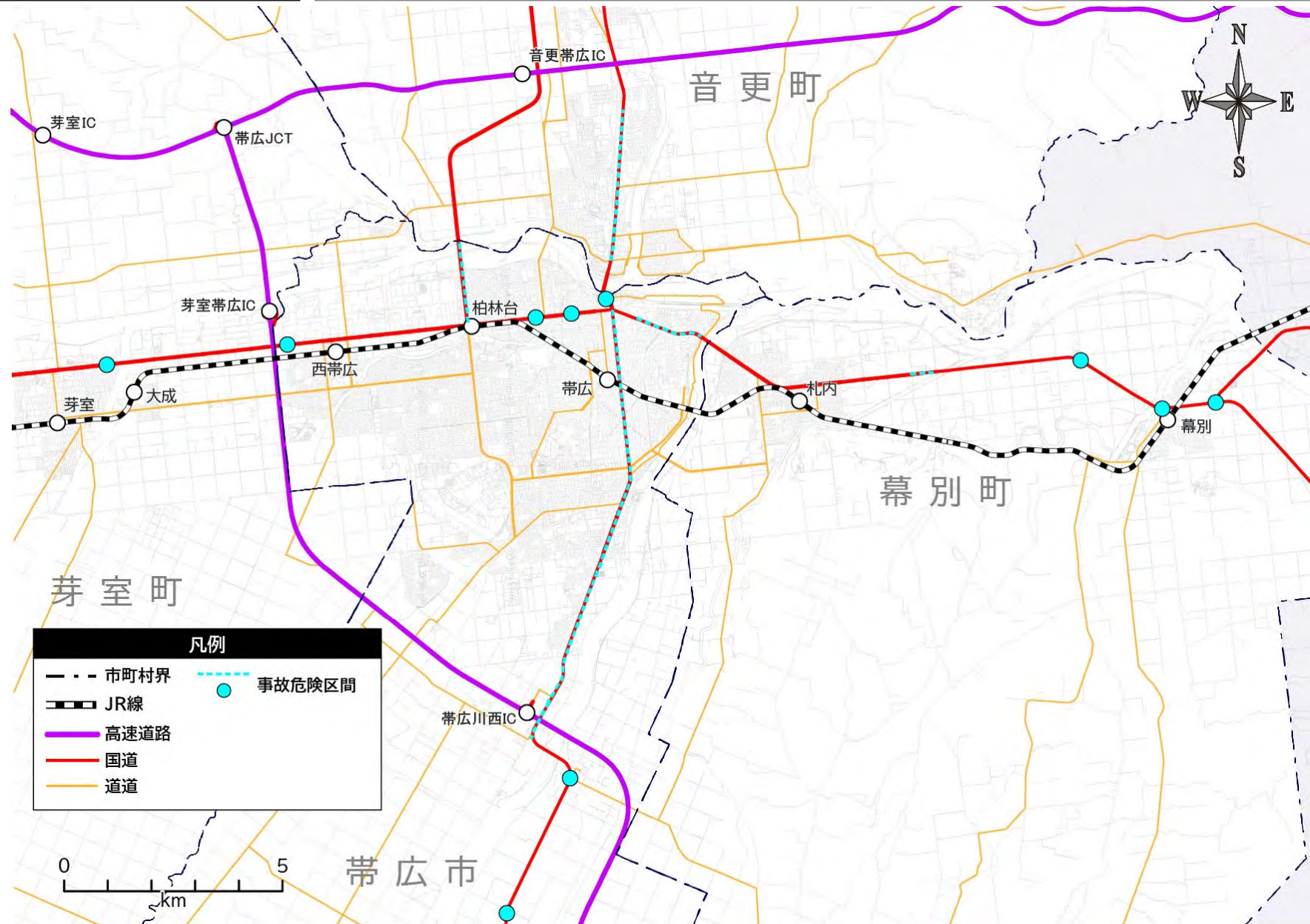
貨物流動【帯広着】



6. 交通事故

(1) 事故危険区間

- 国道241号や音更大通、国道236号が事故危険区間として選定されており、国道38号沿いの交差点部についても選定されています。

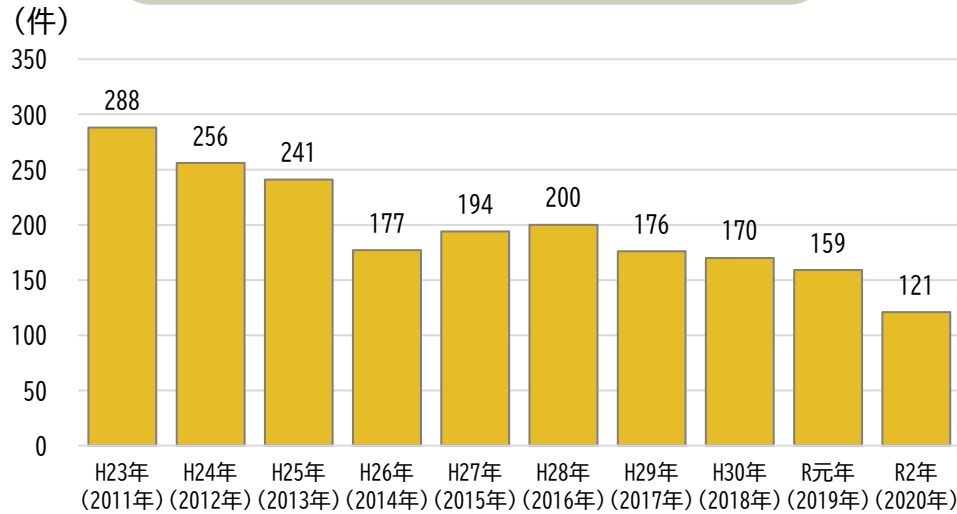


6. 交通事故

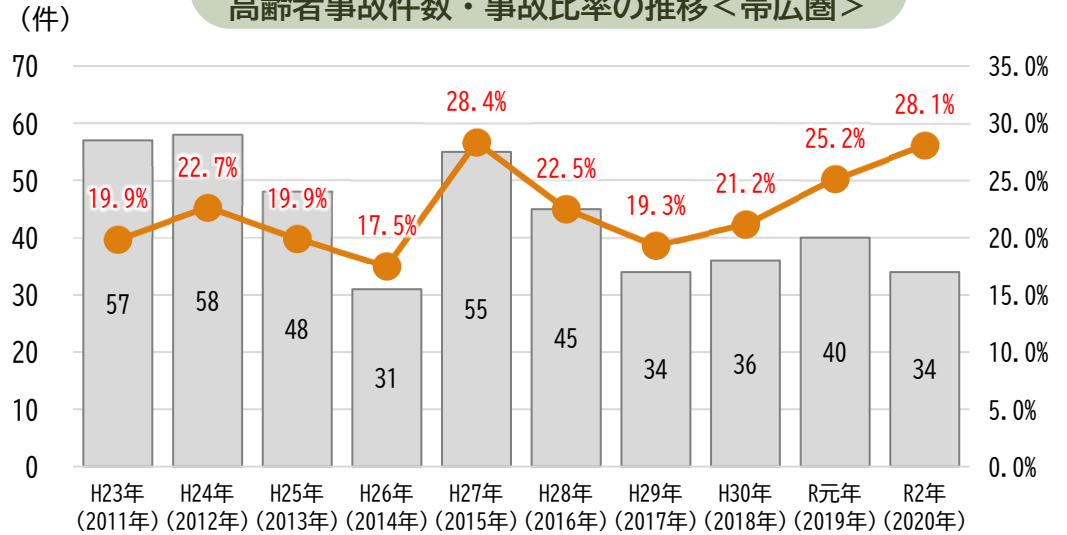
(2) 交通死傷事故

- 交通死傷事故件数は減少傾向にありますが、高齢者の事故比率は増加傾向にあります。
- 交通死傷事故の発生箇所は交差点が7割以上を占め、追突事故や出会い頭の事故の割合が高いです。

交通死傷事故数の推移<帯広圏>

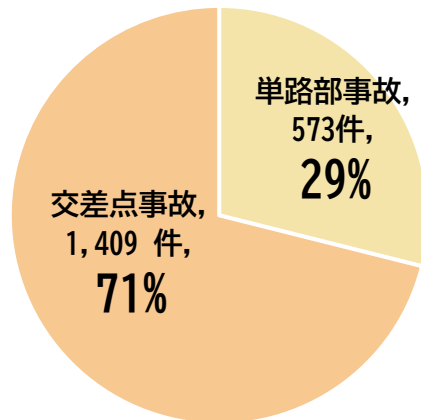


交通死傷事故の高齢者事故件数・事故比率の推移<帯広圏>



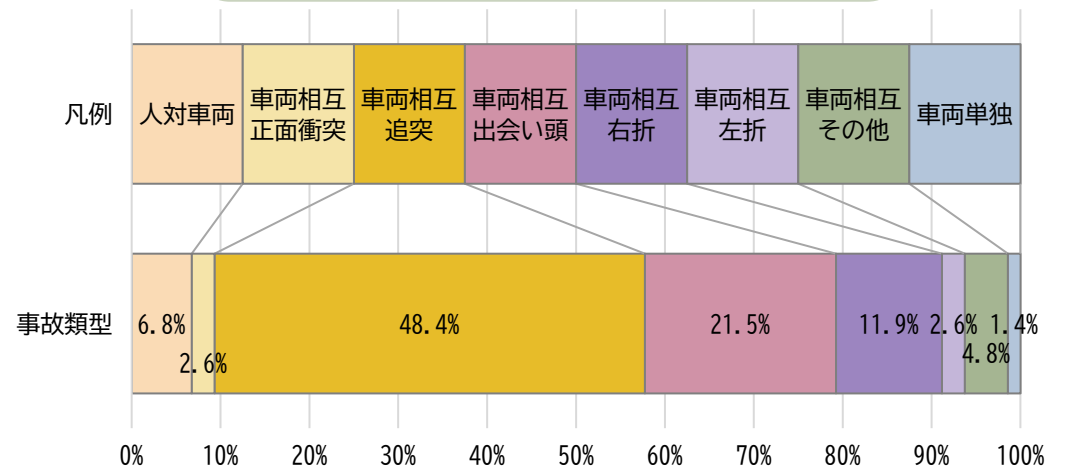
※ 高齢者事故：交通死傷事故の内、第1当事者が65歳以上の事故

交通死傷事故の発生箇所<帯広圏>



※件数はH23-R2の合計値

交通死傷事故の事故類型<帯広圏>



出典：ITARDA事故データ (H23-R2)

6. 交通事故

(3) 交通死傷事故の発生箇所

- 平成28年～令和2年の5年間の交通死傷事故件数を見ると、帯広駅周辺から音更市街地間で事故が多発しています。
- また、柏林台駅周辺や音更帯広ICへのアクセス道と道道上土幌土幌音更線との交差点でも事故が多発しています。

交通死傷事故の発生箇所<帯広圏>

